



信金中央金庫

SCB SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No. 2022-134
(2023. 3. 24)

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048
URL <https://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

信用金庫の新しいビジネスモデル策定 -店内・店外ATMの設置動向-

とね かずゆき
刀禰 和之

ポイント

- 信用金庫のATM設置台数は、2001年9月末の196百台から2021年9月末には182百台となり、この間6.9%の減少に留まるなど、微減傾向にある。
- 既存のATM網の再配置から一歩進め、総設置台数の削減に着手する信用金庫が増えてきた。また、機能や稼働時間を再設定する信用金庫もみられる。
- ATM設置の見直しにあたっては、個々のATM稼働率や採算状況などを客観的・総合的に把握のうえ、経営陣がリーダーシップを発揮する必要がある。
- 研修受講金庫の取組事例を挙げると、自金庫店内ATMを削減し他金融機関ATMに誘導する信用金庫、業務効率化のため店内ATMの硬貨入金機能を再設定する信用金庫などがあつた。

(注) 本稿は、当研究所主催「経営戦略プランニング研修(2022年度)」の講義および意見交換時の内容を中心に作成している。

1. ATMの設置状況

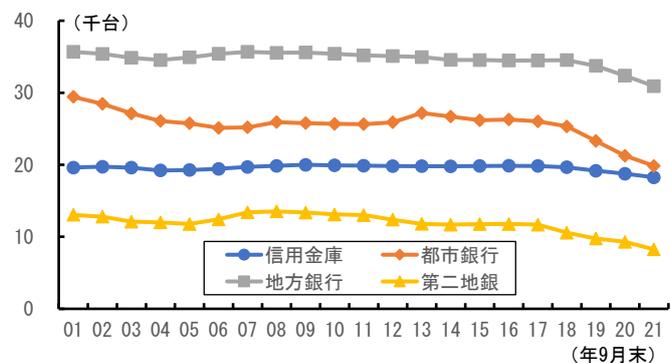
コンビニATMの普及や他金融機関との提携拡大、キャッシュレスの浸透などから、ATM設置の見直しを進める信用金庫は多い。特に2024年度にも予定される改札への対応がATM設置の削減機運を後押ししている。

ただし、信用金庫のこれまでのATM見直し議論は、総設置台数の削減ではなく再配置が中心だったと考えられる。実際、信用金庫のATM設置台数の推移をみると、2021年9月末に182百台となり、2001年9月末(196百台)から13百台、6.9%の減少に留まる(図表1)。また、1店舗あたりATM設置台数(ATM設置台数÷ATM設置店舗)は、同期間に2.3台から2.6台に増加しており、店舗統廃合に比べATM設置台数の削減遅れが想像される。実際、当研修の受講金庫からも、

「これまでは全体の設置台数を減らさない方針で再配置してきたが、コスト削減・経営合理化を考えると、再配置ではなく設置台数そのものを減らしていく必要がある。」などの意見が相次いだ。

なお、信用金庫の店外ATM設置台数は、2021年度末に3.9百台となり、2001年度末から15.8%減少している。これまでは店舗統廃合後に店外ATMを残す信用金庫が多かったが、最近は店外ATMを設置しない(店外ATMを残さない)信用金庫が増えつつある。

(図表1) 業態別のATM設置台数の推移



(備考) 全国銀行協会「決済統計年報」より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 最近の見直し傾向

信用金庫を取り巻く経営環境が厳しさを増すなか、A T Mの再配置から設置台数の削減に舵を切る信用金庫が増えている。顧客利便性の維持に配慮しつつも、店外A T Mの廃止に加え、店内A T Mも必要最低限の設置台数にする研修受講金庫があった。また、当研修ではゆうちょ銀行の硬貨取扱手数料の新設（2022年1月）以降、取扱いが増えているA T Mの硬貨入金機能のあり方が議論となり、取扱停止や有料化などの対応策が聞かれた。その他では、稼働率を勘案し休日の取扱停止、稼働時間の短縮なども行われている。

3. 見直し時の検討課題

A T M設置の見直しにあたっては、実績に基づく稼働率や採算状況を客観的に把握し、経営陣のリーダーシップのもと取り組む必要がある。一部の研修受講金庫からは「A T Mに関する所管部署が複数に亘り、誰も総合的な判断を行ってこなかった。」との課題認識があった。一方、企画部門が中心となって見直しを進める研修受講金庫もあり、こうした信用金庫では稼働率を第一条件に挙げつつ、採算や営業推進上の必要性、営業店職員の負荷などを見直しの判断材料としていた。

4. 研修受講金庫の取組事例

当研修の意見交換時に聴取した研修受講金庫の主なコメントは図表2のとおりである¹。

（図表2）A T Mの見直しに関する主なコメント

- 当金庫の店内A T Mの大半は1台設置である（削減した）。近隣にコンビニが増え、また先般、地域銀行ともA T M無料提携を行ったので、顧客利便性は低下していない。
- 3台を2台、2台を1台など、数年かけて店内A T Mの設置台数を削減した。A T M廃止後の余剰スペースは地域貢献に有効活用するなどしている。
- 当金庫はコスト削減効果を重視するため、店舗統廃合後に店外A T Mを残さない。僚店や無料提携する他金融機関の店舗を案内するに留める。
- 店内A T Mの設置台数を削減すると特定の繁忙時にA T Mコーナーが混雑する恐れがある。実際にはごく限られた時間であり、来店の平準化をお願いすることで対応している。
- 当金庫は大量硬貨の入金機能を有する新型A T Mを設置した。店頭業務の省力化が優先課題なので、ある程度の物件費上昇は想定範囲である。
- 当金庫は、店内A T Mの硬貨入金機能を停止した。
- 当金庫は、店内A T Mの硬貨入金機能を平日9時から17時までに短縮した。
- 当金庫は、店内A T Mの硬貨入金機能を自金庫キャッシュカード利用時のみに設定した。
- 当金庫は、店内A T Mの硬貨入金を有料化する予定である。
- 稼働率の低い店舗については、休日の取扱いを止めた。顧客からの不満もあったが、近隣に他金融機関も多いので、すぐに周知された。
- 店内A T Mの稼働時間は稼働率などを勘案し個別に設定している。無駄な監視費用などを削減するのが目的である。
- 顧客利便性を高めるため、店内A T Mの稼働時間を全店で統一した。店舗ごとにA T M稼働時間が異なると顧客が混乱する恐れがある。

（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

以上

¹ 当該コメントは研修受講者の個人的な意見・感想を含むものであり、研修受講金庫の正式なコメントではない。そのため事例の記載にあたっては信用金庫名が特定できないように修正してある。